



## 地理歴史・公民(世界史B, 日本史B, 地理B, 政治・経済)問題

はじめに、これを読みなさい。

1. これは、世界史B, 日本史B, 地理B, 政治・経済の4科目の問題を綴じた冊子である。必要な科目を選択して解答しなさい。
2. 問題は全部で77ページある。ただし、ページ番号のない白紙はページ数に含まない。
3. 解答用紙に印刷されている受験番号が正しいかどうか、受験票と照合して確認すること。
4. 監督者の指示にしたがい、解答用紙の氏名欄に氏名を記入すること。
5. 監督者の指示にしたがい、解答用紙にある「解答科目マーク欄」に1つマークし、「解答科目名」記入欄に解答する科目名を記入しなさい。なお、マークしていない場合、または複数の科目にマークした場合は0点となる。
6. 解答は、すべて解答用紙の所定欄にマークするか、または記入すること。所定欄以外のところには何も記入しないこと。解答番号は各科目の最初に示してある。
7. 問題に指定された数より多くマークしないこと。
8. 解答は、必ず鉛筆またはシャープペンシル(いずれもHB・黒)で記入のこと。
9. 訂正する場合は、消しゴムできれいに消し、消しくずを残さないこと。
10. 解答用紙は、絶対に汚したり折り曲げたりしないこと。
11. 解答用紙はすべて回収する。持ち帰らず、必ず提出すること。
12. この問題冊子は必ず持ち帰ること。
13. マーク記入例

| 良い例   | 悪い例   |
|---|---|
|  |  |





# 世界史 B

(解答番号 1～44, 101～106)

〔 I 〕 次の地中海世界に関する文章(1～2)を読み、下記の設問(1～9)に答えなさい。

1 ギリシア文明はポリスという独特の社会を基礎として生まれた。各ポリスは独立した小国家で、古代のギリシアではつねに小国家分立状態にあり、統一した国家をつくることはなかったが、数次にわたるペルシア戦争に際しては、ギリシア側は諸ポリスが連合してこれに<sup>(ア)</sup>あたり勝利を収めた。

ペルシアの再攻にそなえて結成された  はアテネを中心とする軍事同盟で、最盛期にはエーゲ海周辺の約 200 のポリスが加盟したといわれている。この勢いに脅威を感じたスパルタを盟主とする  がこれに対抗し、やがて両者はギリシアの諸ポリスを二分する形でギリシア人どうしの戦争に突入することになった。それを契機としてギリシア諸ポリスの勢力は衰えていった。

その後、ギリシア北方のマケドニアが軍事力を強め、南下してギリシアを支配下におさめた。アレクサンドロス大王の時代には、マケドニアとギリシアの連合軍を率いて東方遠征にのりだし、エジプトからインド西北部まで征服し、東西にまたがる大帝国を築いた。こうして、ギリシア文化がオリエントにまでひろまり、ヘレニズム時代とよばれる一時代が展開する。<sup>(イ)</sup>

問 1 下線部(ア)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(1)の記号にマークしなさい。

A ペルシア戦争は、アケメネス朝ペルシアの支配に対し、小アジア西岸のイオニア地方のギリシア人植民市が反乱をおこしたのをきっかけとして始まった。

- B ペルシア軍は前 492 年, 前 490 年, 前 480~479 年の 3 回にわたって  
  侵攻した。
- C テミストクレスが指揮する重装歩兵がペルシア軍を撃破したマラトンの  
  戦いによってペルシア戦争におけるギリシア側の勝利が確定した。
- D カリアスの和約でペルシア戦争は最終的に終結した。

問 2 空欄(1), (2)に最も適した語句を解答番号(101), (102)に記入しなさい。

問 3 下線部(イ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び, 解答番号  
(2)の記号にマークしなさい。

- A ギリシア文化が東方に波及し, 各地域でオリエント文化と融合してヘ  
  レニズム文化とよばれる新しい文化が生まれた。
- B アレクサンドロス大王の死後, 領土はいくつかの王国に分裂したが,  
  その中で最大の領土を支配したセレウコス朝シリアが最も後まで存続し  
  た。
- C この時代にはポリス中心の考え方にかわって, ポリスの枠にとらわれ  
  ない世界市民主義(コスモポリタニズム)がおこった。
- D アレクサンドロス大王によってナイル川河口に建設されたアレクサン  
  ドリヤは, プトレマイオス朝エジプトの政治, 経済, 文化の中心として  
  栄えた。

2 前 3 世紀前半にイタリア半島を支配下におさめた共和政ローマは, その後西  
地中海で大きな勢力を築いていたカルタゴと戦って(ポエニ戦争), <sup>(イ)</sup>これを滅ぼ  
し, さらに東方にも進出し, 前 2 世紀半ばには地中海とその周辺に君臨する大  
勢力となった。

ローマはこれら海外の征服地を属州として統治したが, そこから大量の奴隷  
や巨額の富が流れ込み, それがローマの社会を大きく変えた。属州からの安い  
穀物の流入などのため土地を手放さざるをえなくなった中小農民が増え, 他  
方, 貴族や上層の平民は土地の買い占めや征服でうまれた公有地の私有地化な

どを行い、多数の奴隷を使ってオリーブやブドウなどを栽培する (3) が発展した。こうして市民の間に経済的格差が拡大した。

ローマはその後「内乱の1世紀」と呼ばれる時代になるが、第1回三頭政治の開始後ローマはアルプスを越えてヨーロッパ内陸部を遠征し、そこに居住していたケルト人やゲルマン人などを征服した。カエサルはその遠征記録を (4) にまとめているが、これは古ケルト、古ゲルマン研究の重要史料とされている。帝政ローマの前期の約200年間はパックス＝ロマーナとよばれる黄金時代であるが、とくに五賢帝(エ)の時代はローマの最盛期である。

1世紀にローマ支配下のパレスチナから生まれたキリスト教は、長い間迫害されていたが、次第にローマ帝国全土にひろがり、ついに313年のミラノ勅令で公認された。さらに教義をめぐる論争(カ)などを経てアタナシウス派キリスト教が国教とされ、それ以外は厳禁された。こうしてキリスト教は次第に国家権力との結びつきを強めていくことになった。

ローマ人は高度な精神文化ではギリシアの模倣におわったとされるが、実用的文化や技術の面では後世にも引き継がれる多くのものを残した。今日の我々の生活にも深い影響を及ぼしているローマ法(キ)もその一つである。

問4 下線部(ウ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(3)の記号にマークしなさい。

- A カルタゴは、フェニキア人がアフリカ北岸に建設した植民市である。
- B シチリア島の支配をめぐって第1回ポエニ戦争が開始され、勝利したローマがシチリア島を獲得した。
- C カルタゴ側の名将ハンニバルは、第2回ポエニ戦争で冬のアルプスをこえて北イタリアに侵入しローマ軍に大打撃をあたえた。
- D スパルタクスが指揮するローマ軍はザマの戦いで勝利し、第2回ポエニ戦争でのローマ側の勝利を決定づけた。

問5 空欄(3)に最も適した語句を解答番号(103)に記入しなさい。

問 6 空欄(4)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(4)の記号にマーク  
しなさい。

- |           |         |
|-----------|---------|
| A 『ゲルマニア』 | B 『年代記』 |
| C 『ガリア戦記』 | D 『英雄伝』 |

問 7 下線部(エ)に関連して五賢帝に該当しない皇帝の名を下から一つ選び、解  
答番号(5)の記号にマークしなさい。

- |          |                      |          |
|----------|----------------------|----------|
| A ネルウァ   | B トラヤヌス              | C ハドリアヌス |
| D テオドシウス | E マルクス=アウレリウス=アントニヌス |          |

問 8 下線部(オ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号  
(6)の記号にマークしなさい。

- A キリスト教の教義統一のためコンスタンティヌス帝が 325 年エフェソ  
ス公会議を招集した。
- B アタナシウスは、イエスを神と同一視する説をとえ、それは三位一  
体説に発展した。
- C 異端とされたネストリウス派はペルシアを経て中国に伝わり、景教と  
よばれた。
- D ユリアヌス帝は、ミトラ教に改宗し、後に「背教者」とよばれた。

問 9 下線部(カ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号  
(7)の記号にマークしなさい。

- A ローマ法は、ゲルマン法とともに近代ヨーロッパ法の源流となった。
- B 慣習法を成文化した十二表法はローマ法の最古の成文法である。
- C 領土の拡大とともにローマ法は帝国に住むすべての自由民に適用され  
る万民法に成長した。
- D 東ローマ皇帝レオン 3 世がトリボニアヌスらの法学者に命じて『ロー  
マ法大全』を編纂させた。

〔Ⅱ〕 次の文章(1～3)を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

1 民族大移動後の長い混乱期を経て、西ヨーロッパでは封建的主従関係と荘園<sup>(ア)</sup>という二つのしくみの上になりたつ封建社会がうまれた。封建社会は11～13世紀に最盛期を迎えた。この時期西ヨーロッパは、気候が温暖で三圃制の普及<sup>(イ)</sup>や農業技術の進歩などにより農業生産が増大し、人口も飛躍的に増加した。

それともない西ヨーロッパ世界では、修道院を中心にした開墾運動、エルベ川以東への東方植民、イベリア半島の国土回復運動<sup>(ウ)</sup>、十字軍の遠征など、内外に向けての拡大が進められた。

問 1 下線部(ア)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(8)の記号にマークしなさい。

- A 主君が家臣に領地を与えて保護するかわりに、家臣は主君に忠誠をちかい軍事的奉仕の義務を負うという人と人との結びつきがうまれた。
- B 封建的主従関係では、主君と家臣の双方に契約を守る義務があった。
- C 領主が所有する荘園は、領主直営地と農民保有地、森林・牧草地などの共同利用地からなっていた。
- D 領主は国王の支配下にあり、国王の役人が自由に荘園にたちいたり、課税することができた。

問 2 下線部(イ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(9)の記号にマークしなさい。

- A アルプス以北のしめって重たい土壌を深く耕すため重量有輪犁の使用が普及した。
- B 各耕地は細長い地条にわかれ、農民は各耕地に散在する地条を保有した。
- C この時期普及した三圃制では、耕地を、牧草をまく秋耕地、小麦・ライ麦をまく春耕地、休耕地に三分した。
- D 開放耕地での主要な農作業は共同で行われることが多かった。



問 3 下線部(ウ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(10)の記号にマークしなさい。

- A 開墾運動の先頭にたった修道院にシトー修道会があった。
- B 12～14世紀に大規模な植民が行われたエルベ川以東の地域では、後に西ヨーロッパ向けの穀物生産が大規模に行われるようになった。
- C 東方植民によってブランデンブルク辺境伯領やドイツ騎士団領などの諸侯国がつけられた。
- D イベリア半島では、イスラーム勢力の支配から領土を奪いかえそうとするレコンキスタが展開され、1236年のコルドバの奪還によって完了した。

2 フランスはアンリ4世に始まるブルボン朝のもとで絶対王政の全盛期を迎えた。幼少で即位したルイ13世を補佐した宰相  は、三部会をひらかず、ユグノーや貴族の勢力をおさえて王権の強化に努め、対外的には三十年戦争に積極的に介入し、新教勢力の側に立ってハプスブルク家に対抗した。

ルイ14世の即位後も、宰相  によって王権強化の政策は継続された。これに対して高等法院や貴族たちが反乱をおこしたが、鎮圧された。ルイ14世はその後1661年に親政を開始し、強大な権力をふるって「太陽王」とよばれた。

問 4 空欄(1)、(2)にあてはまる人物名の正しい組み合わせを、下から一つ選び、解答番号(11)の記号にマークしなさい。

- |                                  |                                  |
|----------------------------------|----------------------------------|
| <input type="text" value="(1)"/> | <input type="text" value="(2)"/> |
| A コルベール                          | マザラン                             |
| B マザラン                           | リシュリユー                           |
| C リシュリユー                         | マザラン                             |
| D リシュリユー                         | コルベール                            |
| E マザラン                           | コルベール                            |
| F コルベール                          | リシュリユー                           |

問 5 下線部(エ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(12)の記号にマークしなさい。

- A アンリ 3 世の暗殺によるヴァロワ朝の断絶の後アンリ 4 世が即位した。
- B アンリ 4 世は旧教から新教に改宗した。
- C アンリ 4 世はナントの勅令をだし、ユグノーにも大幅な信教の自由を認めてユグノー戦争をおわらせた。
- D アンリ 4 世は旧教の聖職者に暗殺された。

問 6 下線部(オ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(13)の記号にマークしなさい。

- A カペー朝のフィリップ 2 世が初めて三部会を招集した。
- B 三部会は聖職者、貴族、市民の三身分の代表者で構成される身分制議会である。
- C 三部会は新規課税の審議権をもった。
- D ルイ 16 世のときに財政問題のゆきづまりから長い間ひらかれていなかった三部会が招集された。

問 7 下線部(カ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(14)の記号にマークしなさい。

- A 王権神授説にたち、「朕は国家なり」といったとされる。
- B 財務総監にテュルゴーを起用し、重農主義政策を展開した。
- C パリの近郊にバロック式の壮大なヴェルサイユ宮殿を完成させた。
- D スペイン継承戦争をたたかい、ユトレヒト条約によってブルボン家のスペイン王位継承を認めさせた。

3 イギリスでは18世紀に第2次囲い込みや農業革命等が<sup>(キ)</sup>おこり、さらに工業についても木綿工業の機械化等生産の様式の変革、産業革命がおこった。世界に先駆けて産業革命を達成し、「世界の工場」の地位を獲得したイギリスでは、貿易政策についても19世紀半ばには産業資本家に有利な自由貿易政策が<sup>(ク)</sup>実現された。こうしてイギリスでは産業資本家と彼らに雇用される労働者との二大階級が形成され、それとともに労働問題、社会問題も激化し、その解決をめざす運動や思想も<sup>(ケ)</sup>生まれた。

問 8 下線部(キ)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(15)の記号にマークしなさい。

- A 第2次囲い込みでは牧羊のために大地主が中小農民の耕作する農地や村の共同地を囲い込んだ。
- B 囲い込みによって土地を失った農民は農業労働者や都市の工業労働者となった。
- C イングランド東部のノーフォークでは三圃制をやめ、根菜や牧草栽培で家畜を増やし、畜糞を肥料として穀物増産をはかる新農法が生まれた。
- D 市場向けの大規模な穀物生産が発展し、産業革命期の人口増を支えた。

問 9 下線部(ク)に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(16)の記号にマークしなさい。

- A 自由貿易主義の主張は、リカード等によって提唱され、当時の産業資本家らの強い支持をえた。
- B コブデンやブライトによって1839年反穀物法同盟が結成された。
- C グラッドストーン自由党内閣によって1846年穀物法が廃止された。
- D 1849年航海法の廃止によってイギリスの自由貿易体制が確立された。

問10 下線部分に関連する説明で誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(17)の記号にマークしなさい。

- A 労働者の団結を禁止する団結禁止法は1824年に廃止され、1871年に労働組合法が制定された。
- B イギリスの1833年の工場法では児童労働の制限、1847年の工場法では女性、子どもの10時間労働制などが定められた。
- C フーリエは、スコットランドのニューラナークの工場で労働者の環境を改善することで生産性を向上させようと試みた。
- D マルクスとエンゲルスは『共産党宣言』を発表し、資本主義の原理である私的所有と資本による労働の支配、搾取を克服する共同社会の実現を訴えた。

世界史B 問題は次ページに続いています。

〔Ⅲ〕 次の文章を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

インド亜大陸において最も古い文明はインダス文明で、前 2300 年ごろにおこった。モエンジョ = ダーロやハラッパーに代表される遺跡には、煉瓦づくりの都市が形成された。

前 1500 年ころになるとアーリア人がインド西北部に進入し、先住民と交わり定住農耕社会を形成した。その中で生まれたのがヴァルナ制と呼ばれる身分的上下観念で、インド社会の形成に大きな影響を与えた。前 6 世紀ころになると、都市国家が生まれるようになり、政治・経済の中心がガンジス川上流域から中・下流域へ移動した。またこのころに、仏教やジャイナ教が誕生した。

前 4 世紀になると、アレクサンドロス大王の西北インドへの進出後の混乱からインド最初の統一王朝として  が登場し、アショーカ王の時代に最盛期を迎えた。その後、紀元後 1 世紀ころに西北インドにイラン系遊牧民族が建てたのがクシャーナ朝で、 の治世に最盛期を迎えた。クシャーナ朝下で東西貿易を軸に国際的な経済活動が活発となり、インドにも莫大な富がもたらされた。また、紀元前後には仏教から新しい運動がうまれた。

4 世紀に入るとガンジス川中流域を征服したグプタ朝が創始され、北インド全域を支配した。グプタ朝において、 語が公用語化され、また、宗教とことばを土台として、インド世界の独自性がつくりあげられ、様々な文化的な成果が生み出された。

問 1 下線部(ア)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(18)の記号にマークしなさい。

- A インダス文明では壮大な計画に基づき整然とした都市建設が進められた。
- B インダス文明では未だ解読されていないインダス文字が使われていた。
- C インダス文明の遺跡から多くの印章と彩文土器が発見された。
- D インダス文明の遺跡では強大な支配権力を示す宮殿跡が見つかった。

問 2 下線部(イ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(19)の記号にマークしなさい。

- A ヴァルナとは、人は三つの身分にわかれるとする観念である。
- B ヴァルナではバラモンが最高の身分と考えられた。
- C ヴァルナは、カースト制度形成に関係している。
- D ヴァルナ制の枠外に被差別民がおかれ、不可触民として差別された。

問 3 下線部(ウ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(20)の記号にマークしなさい。

- A 仏教ではヴァルナ制が否定された。
- B 仏教から内面の思索を重視したウパニシャッド哲学が生まれた。
- C 仏教はクシャトリアやヴァイシャたちから支持された。
- D 仏教では輪廻転生から脱却する解脱の道が説かれた。

問 4 空欄(1)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(21)の記号にマークしなさい。

- A カリಂಗ国
- B サータヴァーハナ朝
- C マウリヤ朝
- D ナンダ朝

問 5 下線部(エ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(22)の記号にマークしなさい。

- A アショーカ王は、全インド及びスリランカ(セイロン島)を統一した。
- B アショーカ王は、詔勅を刻んだ磨崖碑や石柱碑を各地に建てた。
- C アショーカ王は、仏典結集をおこなった。
- D アショーカ王は、国外への仏教の普及を支援した。

問 6 空欄(2)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(23)の記号にマークしなさい。

- A チャンドラグプタ 2 世
- B ハルシャ = ヴァルダナ
- C チャンドラグプタ 1 世
- D カニシカ王

問 7 下線部(カ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(24)の記号にマークしなさい。

- A この運動は大乗仏教と呼ばれ、出家した人々全ての救済をめざした。
- B 大乗仏教では、ヘレニズム文化の影響を受けた新しい仏像が生み出された。
- C この運動では、それまでの仏教は自身のみを悟りを目的とした利己的なものと批判された。
- D 大乗仏教は、中央アジアを經由して日本にも伝えられた。

問 8 下線部(カ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(25)の記号にマークしなさい。

- A グプタ朝は、王国直轄領と従来の支配者がグプタ朝の臣下として統治する地域、貢納により服属する属領から構成されていた。
- B グプタ朝では、仏教やジャイナ教は急速に衰退した。
- C グプタ朝では、ヒンドゥー教が社会に定着し始めた。
- D グプタ朝では、バラモンが再び重んじられるようになった。

問 9 空欄(3)に最も適した語句を解答番号(104)に記入しなさい。

問10 下線部(キ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(26)の記号にマークしなさい。

- A 十進法による数字の表記法が用いられた。
- B ガンダーラ美術の影響からぬけで、純インド的な表情をもつグプタ様式が成立した。
- C カーリダーサが戯曲『マハーバーラタ』を創作した。
- D マヌ法典が現在伝えられるような形に完成した。



世界史B 問題は次ページに続いています。

〔Ⅳ〕 次の文章を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

インド洋は東西を結ぶ重要な貿易航路であった。10～11世紀にかけて、ムスリム商人は、インド・東南アジア産の貿易品を多数カイロやアレクサンドリアに持ち込んだ。イタリア商人は、12～15世紀にかけて、ムスリム商人と積極的に交易をおこない、多くの特産物をヨーロッパ世界にもたらした。11～13世紀に十字軍とムスリム軍との間に戦闘があったにもかかわらず、貿易は継続され、また先進的な知識や技術がヨーロッパに導入された。

その後、ヨーロッパではポルトガルが航海事業を推進し、1488年、 (1)  がアフリカ南端の喜望峰に達した。1498年にはヴァスコ＝ダ＝ガマが喜望峰を迂回してインド西岸のカリカットに到達した。インド航路を開拓したポルトガルは、1510年にインドの (2)  を占領して、ここをアジア貿易の根拠地とした。

ポルトガルの後、オランダがアジアに進出し、ポルトガル商人を排除しつつ香辛料貿易を支配下においた。オランダは (3)  を転機にイギリスの勢力をインドネシアからしめだした。これを機に、イギリスは、東インド会社を設立してインド経営に力を注ぎ、活発な通商活動を展開し世界貿易の覇権をにぎった。

このような遠隔地貿易を支えたのが銀の増産であった。スペインによってラテンアメリカの銀山が開発されたことで、大量の銀がヨーロッパやアジアに流入した。これによって東西の貿易の決済手段が確保され、貿易が拡大した。事実、16世紀から17世紀にかけて、東南アジアや中国、インドなどのアジアの特産品が銀によって買い付けられ、同時にヨーロッパの商品もアジア各地に広まった。

問 1 下線部(ア)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(27)の記号にマークしなさい。

- A ムスリム商人との取引は、香辛料が中心であった。
- B ムスリム商人との交易を担ったのは主に北イタリア商人であった。
- C 交易の発達の結果、貨幣経済が促され、それが農業中心のヨーロッパの中世封建体制崩壊の一因となった。
- D 交易で栄えた沿岸の都市とは対照的に、ミラノ、フィレンツェなどの内陸都市は衰退した。

問 2 下線部(イ)に関連し、最も適したものを下から一つ選び、解答番号(28)の記号にマークしなさい。

- A ウルバヌス 2 世がクレルモン宗教会議を招集し、十字軍を提唱した。
- B 第 1 回十字軍は、聖地奪還に失敗した。
- C 第 3 回十字軍は、本来の目的を逸脱し、コンスタンティノーブルを占領し、ラテン帝国を樹立した。
- D 神聖ローマ皇帝フリードリヒ 2 世が、第 6 回と第 7 回十字軍で指揮をしたが、聖地を回復できなかった。

問 3 下線部(ウ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(29)の記号にマークしなさい。

- A 医学や数学などのアラビア語の著作がラテン語に翻訳され、ヨーロッパの近代科学の誕生に貢献した。
- B 火薬は唐で実用化され、イスラーム世界を経て西欧に伝えられた。
- C 製紙法は 8 世紀にイスラーム世界に伝わり、12 世紀に西欧に伝えられた。
- D 羅針盤はイスラーム世界経由で西欧に伝えられ、イタリアで改良された。

問 4 空欄(1)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(30)の記号にマークしなさい。

- A カブラル
- B カボット
- C バルトロメウ = ディアス
- D アメリゴ = ヴェスプッチ

問 5 下線部(エ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(31)の記号にマークしなさい。

- A ガマは、エンリケ航海王子の命を受けてインド航海に出た。
- B ガマは、インド総督(副王)に任ぜられた。
- C ガマは、アラブ人の水先案内人を雇ってインドに到達した。
- D ガマは、アフリカ東岸のイスラーム勢力圏に沿って北上した。

問 6 空欄(2)に最も適したものを下から一つ選び、解答番号(32)の記号にマークしなさい。

- A マドラス                      B ゴア                      C ボンベイ(ムンバイ)  
D カルカッタ(コルカタ)

問 7 空欄(3)に最も適した語句を解答番号(105)に記入しなさい。

問 8 下線部(カ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(33)の記号にマークしなさい。

- A 東インド会社は、ジェームズ1世によって設立された。  
B 東インド会社は、喜望峰からマゼラン海峡までの貿易独占権を認められた。  
C 東インド会社は、アジア進出・植民地支配に大きく貢献した。  
D 東インド会社は、1858年のインド大反乱を機に解散させられた。

問 9 下線部(カ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(34)の記号にマークしなさい。

- A ポトシ銀山はアメリカ大陸最大の銀山であった。  
B ヨーロッパでは、流入した大量の銀によって価格革命が起こった。  
C スペインは主にマカオで中国の陶磁器等を銀で買い付けた。  
D アジア内部の交易においても、銀が国際的通貨として使用された。

問10 下線部(キ)に関連し、誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(35)の記号にマークしなさい。

- A ヨーロッパ商人によって東南アジアでは胡椒・香料が買い付けられた。  
B ヨーロッパ商人によって中国では生糸が買い付けられた。  
C 火縄銃や大砲などのヨーロッパの新式火器がアジアに広まった。  
D ヨーロッパから大量の綿織物がアジアに流入した。

世界史B 問題は次ページに続いています。

[V] 内陸アジアに関する次の文章(1～2)を読み、下記の設問(1～10)に答えなさい。

1 内陸アジアとは東は大興安嶺、西はカスピ海、南はヒンドークシュ山脈とヒマラヤ山脈、北は南シベリアの森林地帯に囲まれた広大な地域を指す。この地域は乾燥地帯で、地形的には高い山脈と高原、広大な草原と砂漠、そして点在するオアシス地域によってなる。

草原地帯では遊牧生活を営む騎馬遊牧民が活躍した。古くは前6世紀頃のスキタイ、その後の匈奴などである。オアシス地帯ではオアシス都市を中心に農牧生活と隊商貿易が営まれた。これらの中継都市とする東西交通路はオアシスの道と言われた。

このような内陸アジアに大きな変動をもたらしたのは、東からのトルコ化と西からのイスラーム化の進展であった。6世紀頃にモンゴル高原におきた突厥、それに続いたウイグルはいずれもトルコ系で、これら遊牧国家の興廃はトルコ人集団の西方への移動を促した。他方で7世紀にアラビア半島で形成されたイスラーム教は8世紀には西アジアから中央アジアへと広がった。アッパース朝はアラブ帝国からイスラーム帝国への転換を図り、751年の(1)では中国の唐軍に大勝した。

問1 下線部(ア)に関連し、スキタイ、匈奴の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(36)の記号にマークしなさい。

- A スキタイは前6～前4世紀頃、モンゴル高原を支配した。
- B スキタイ文化の特徴は動物文様と金の豊富な使用にある。
- C 匈奴は冒頓単于が前4世紀末に建設した。
- D 匈奴は漢の武帝が派遣した張騫によって滅ぼされた。

問 2 下線部(イ)に関連し、オアシスの道の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(37)の記号にマークしなさい。

- A マルコ＝ポーロはオアシスの道を通って、大都に着いた。
- B イラン系のソグド人が東西交易に活躍した。
- C 雲崗と竜門はともにオアシスの道にある。
- D オアシスの道は絹の道とも言われる。

問 3 下線部(ウ)に関連し、突厥、ウイグルの説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(38)の記号にマークしなさい。

- A 突厥は柔然、エフタルを滅ぼした。
- B 突厥は東突厥と西突厥に分裂した。
- C ウイグルは東突厥を滅ぼし、隋と唐に相對した。
- D ウイグルは安史の乱で唐を援助し、隆盛した。

問 4 下線部(エ)に関連し、アッパース朝の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(39)の記号にマークしなさい。

- A アッパース朝はアッパース 1 世がひらいた。
- B アッパース朝の首都はダマスカスにおかれた。
- C アッパース朝はトゥール・ポワティエ間の戦いに敗れた。
- D アッパース朝はフラグの率いるモンゴル軍によって滅ぼされた。

問 5 空欄(1)に最も適した語句を解答番号(106)に記入しなさい。

2 広大な内陸アジアは 13 世紀に成立したモンゴル帝国によって初めて統一された。チンギス＝ハンはモンゴル系・トルコ系の諸部族を統合し、東方では西夏・金を攻め、西方ではホラズム朝を滅ぼした。チンギス＝ハンの死後もモンゴル帝国は領土を拡大したが、13 世紀後半になるとチンギス＝ハンの子孫たちの地方的政権が並立した。14 世紀にはそれらの解体が始まり、その一つからティムール朝が生まれた。それは 15 世紀前半に最盛期を迎え、トルコ＝イスラーム文化が繁栄した。

その頃内陸アジアの東側ではチベット仏教が栄えた。チベット仏教はチベットに生まれ、北上して北アジアに広まった。<sup>(甲)</sup>14世紀に成立した黄帽派はチベット仏教の主流となり、政教両面で中心勢力となった。

しかし17世紀に入るとアジアでは強大な帝国が相対し、内陸アジアはその影響を大きく受けることとなった。東アジアの清、ロシアのロマノフ王朝、西アジアのオスマン帝国、インドのムガル帝国などである。内陸アジアは領土拡大に努める清とロシアの角逐の場となり、これら地域の国々は清やロシアの支配下におかれるようになった。

問6 下線部<sup>(甲)</sup>に関連し、チンギス=ハン死後のモンゴル帝国の変化の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(40)の記号にマークしなさい。

- A モンゴル帝国の第2代皇帝のオゴタイ=ハンは燕京に都をおいた。
- B ワールシュタットの戦いでドイツ・ポーランド諸侯連合軍はモンゴル軍に勝利し、モンゴル軍の西進をとめた。
- C グユクの即位に反対したハイドゥの乱など、大ハン位をめぐる相続争いが生じた。
- D バトゥが南ロシアに建てたキプチャク=ハン国は諸ハン国の中では早くからイスラーム化が進んだ。

問7 下線部<sup>(乙)</sup>に関連し、ティムール朝の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(41)の記号にマークしなさい。

- A ティムール朝をひらいたティムールは、西チャガタイ=ハン国出身で、チンギス=ハンの後継者と称した。
- B ティムールはアンカラの戦いでオスマン軍を破り、さらに明を攻めようとした。
- C トルコ=イスラーム文化が発展し、トルコ文学、イラン文学、細密画の傑作がつけられた。
- D 中心都市のサマルカンドはタリム盆地の西端にあるオアシス都市である。



問 8 下線部(キ)に関連し、チベット仏教の説明として最も適したものを下から一つ選び、解答番号(42)の記号にマークしなさい。

- A チベット仏教は東南アジアから入った上座部仏教と土着の信仰が融合して生まれた。
- B チベット仏教は西域から唐に入り、祇教と言われた。
- C フビライはチベット仏教を信仰し、元ではチベット仏教が栄えた。
- D ソンツェン＝ガンボは黄帽派チベット仏教の開祖である。

問 9 下線部(ク)に関連し、オスマン帝国、ムガル帝国の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(43)の記号にマークしなさい。

- A オスマン帝国はイスラーム化したトルコ系遊牧民によって建てられた。
- B オスマン帝国のイスファハーンは「イスファハーンは世界の半分」と言われるほど栄えた。
- C ムガル帝国はティムールの子孫によって建国されたが、ムガルという名はモンゴルに由来する。
- D ムガル帝国ではインド＝イスラーム様式のタージ＝マハルが建てられた。

問10 下線部(ケ)に関連し、清、ロシアと内陸アジアの関係の説明として誤りのあるものを下から一つ選び、解答番号(44)の記号にマークしなさい。

- A 清はコーカンド＝ハン国を滅ぼし、その地域を新疆と称した。
- B 清はモンゴル、チベットなどを藩部とし、理藩院が管理した。
- C 清とロシアはキャフタ条約(1727年)とイリ条約(1881年)で内陸アジアにおける国境を定めた。
- D ロシアは19世紀後半に、ウズベク族のブハラ＝ハン国などを支配下においた。

